

# ジャカルタにおける子供中心型統合的公共空間の政策過程—政策の定式化と実施

プトリ ドウィナタリス バエハ

キーワード：政策過程、政策の定式化、政策実施、多流列図式、曖昧衝突モデル、RPTRA

政策の形成と実施のプロセスを説明するために、様々な理論的枠組みが案出されてきた。代表的なものとして、定式化の説明に使用される多流列図式（MSF）と実施に用いられる曖昧衝突モデル（ACM）がある。しかし、これらの枠組みは、多様な政策分野の実証的検討が限られている先進国で主に開発されたため、応用可能性に限界がある。本研究では、これらの枠組みをジャカルタの子供中心型統合的公共空間（RPTRA）の分析を通じて開発途上国の事例に適用し、その枠組みの中で両枠組みを改善できる側面を特定する。本研究は、政策コミュニティの主要アクターへのインタビューおよび最新の文献を吟味した結果を元に、RPTRA の政策の定式化と実施のプロセスに影響を及ぼす要因を記述する定性的な研究である。また同時に、MSF と ACM の現地での意義を検討する。

RPTRA の定式化を理解するために MSF を使用する場合、その枠組みは高い説明価値をもつが、広範な適用を可能にするために政策起業家という概念をより拡大する必要がある。政策起業家は、政策立案者から必ずしも独立しておらず、政策立案システム自体の一部となりうるので、政策起業家とはアクターであり、起業家とは区別しなければならない。したがって、彼らは機会を捉えて行動することができ、受身で機会を待つことはない。政治的条件が不安定な国でもアイデアが絶えず現れるようにする、あるいはその実施の持続可能性を保つために、起業家精神もまた移転する必要がある。一方、ACM は、RPTRA の実施を説明するのに適用されうるが、この事例では実施する際の衝突が少ないにもかかわらず、曖昧さの度合いが不確かである。RPTRA の政策手段は曖昧ではないが、その目標は非常に曖昧であり、行政的实施と試験的实施という 2 つの分類に同時に属することになる。したがって、ある政策の欠点を批判的に評価するためには、ACM の曖昧変数に基づいて政策手段と政策目標を区別を強調する必要がある。